

2026 年 6 月 16 日

学校法人三幸学園
横浜ウェディング&ブライダル専門学校
校長 中野 久美子 殿

学校関係者評価委員会
委員長 小杉 友子

学校関係者評価委員会実施報告

2025 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 小杉 友子 (株式会社 BP コーポレートマネジメント室 人材開発)
- ② 坂下 渚咲 (第 1 期卒業生)
- ③ 酒井 元希 (飛鳥未来高校横浜キャンパス キャンパス長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2026 年 6 月 16 日 (会場 横浜ウェディング&ブライダル専門学校 2 号館 7F 教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

**2025 年度 学校法人 三幸学園
横浜ウェディング＆ブライダル専門学校
自己評価ならびに学校関係者評価報告書**

自己評価報告責任者：副校長 宮崎 妙雅

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 小杉 友子

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ウェディング分野の学校として「最幸の結婚式を通じて、日本そして世界の家族を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ウェディング分野として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNo. 1のプランナー・コーディネーターとなる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・就職決定率 100%を目指し、早期動き出し、早期の対策を行った。

→早い段階から意識づけをすることで、学生が自発的に就職活動に取り組み、比較的早い段階から内定をいただくことができた。一方でミスマッチがおこることもあり、内定辞退となったケース等もあったため、職種や求人情報理解をしっかりと行う必要がある。

・学生がクラスという集団の中で、特に行事等を通し自分の役割を考え行動すること、チームで協力するよう促した。

→行事では一定の結果を残し、結果が出たものに関しては学生の満足度も高かったように感じる。

・今後の課題としては学内での業務整理や、体系化、また一部ではなく学生全体を巻き込み、帰属意識や成長実感を与えること。

・広報活動においては募集人数 180 名を目標に、ウェディング業界の魅力をしっかりと伝え、業界に貢献する人材募集を行った。

② 学校関係者評価委員会コメント

・最近の学生は希望職種が明確であり、サービス部門配属を理由に辞退するケースが多くみられる。そのため、業界理解を深め、現場でのやりがいやキャリア形成について日頃から伝える必

要があると感じた。（小杉委員:ウェディングプランナー科について）

・専門学校は分野で縛られているため出来る行事が限られていると思っていたが、半年に1度のペースで行事を開催していることは素晴らしいと感じた。（酒井委員:ウェディングプランナー科について）

・行事を通じて学生が役割を持つことで、責任感が生まれ学校に行く目的づくりに繋がった。一方で学生間の情報共有不足や参加意欲の差による意見のぶつかりが見られることがあった。（坂下委員:ウェディングプランナー科について）

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	3
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

オリエンテーションや保護者会を通し、教育理念や目標等を伝えているが、業界についての理解についても周知していきたい。

業界をより深く知り、企業様との連携を図っていくことが必要。

② 今後の改善方策

企業訪問などを通し、業界に必要な力やニーズを理解し、学生にタイムリーに伝えていく。

（企業訪問の強化、ヒアリング内容の部門内での共有等）

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・保護者様のブライダル業界に対するマイナスイメージが障壁となり、保護者様にご理解を得ることのハードルが上がっている。ブライダル業界は長時間労働やコロナ禍によるニーズの低下という印象が残ってしまっている。ただ、現在は働き方改革が進んでおり改善されている企業がほとんど。また、コロナ禍以前を上回る売上実績を持つ企業もあり、業界需要は回復している。大人数から少人数に減っている傾向はあるが、家族婚などの多様化するニーズに対応することで業界全体が成長している。かつ、結婚式は文化なので無くなることはない。（小杉委員:ウェディングプランナー科について）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

学校運営にあたり、多岐にわたる業務の効率を図る。
コンプライアンスの周知徹底、情報管理体制の確立。

② 今後の改善方策

運営方針について、全教職員に周知する場を定期的に設ける。
（会議等では実務的な部分だけでなく、方針や考え方を伝え共有する場を設ける）
業務の効率化については意識的に発信をし、不要なものは削減していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・コンプライアンスについては研修を実施しているため、大きな情報漏洩事故は発生していない。
（酒井委員:ウェディングプランナー科について）

- ・個人情報管理については、企業側でもルール整備と意識向上を徹底している。ブライダル業界は取り扱っているもの全てが個人情報になるので、資料をデスクに置きっぱなしにしない、会社の PC を持ち出さないなどのルールを徹底している。（小杉委員:ウェディングプランナー科について）
- ・学校運営については行事で情報共有不足があり上手くいっていないケースがあった。例えば三幸フェスティバルの情報を一部の人が知らなかったり 13 日、共通認識が持てていないことがあった。（坂下委員:ウェディングプランナー科について）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

キャリア教育の充実、就職後も見据えた社会人としての指導。
人材不足、時期による業務過多が挙げられるため、教員採用は課題である。

② 今後の改善方策

特に就職指導については、業界や企業についてしっかりと理解し、確認の場を設ける。
地域事務局と連携し、採用活動を行っていく。次年度に向けた人材確保は年内に行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・就職活動の早期化が進んでおり、1年生は入学してすぐに就職活動が始まる傾向がある。そのため、学校と企業の連携強化が必要である。インターンシップや採用活動は1年次5月ごろから始まり、9～10月に本格化するが、この選考スケジュールに対応できる学校とそうでない学校で非常に差が大きく出ている状況。学生は学校の代表として選考を受けているので、所作や発言一つを見ても頑張っている学生と準備が出来ていない学生で差が生まれてしまう。そのため、身だしなみや社会人マナーなど、就職活動前の準備の重要性を学生に伝えていく必要がある。(小杉委員:ウェディングプランナー科について)

・就職活動は早く動いていたため、自分自身は就職活動の対策は出来た。ただ、最初からウェディングプランナー配属の希望が多く業務内容や他職種への理解不足が見られる。そのため、業界内の多様な職種を知る機会を増やす必要があると感じた。(坂下委員:ウェディングプランナー科について)

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

退学に関しては減少傾向ではあるが、学校生活不適應による退学が多いため、対策を考える必要がある。

また姉妹校分野内で見ると決して良い結果ではないため、引き続き対策が必要。

② 今後の改善方策

- ・居場所を作る。人間関係の指導は難しい部分もあるが、社会に出たらという観点で見過ごさず指導していく。
- ・行事では学生それぞれの背景等も理解し、それぞれに合った役割を任せられるような工夫をする。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・就職率は 100%を達成したが、退学率を低下させる施策が必要。人間関係や目標喪失が退学要因として考えられる。(上さん:ウェディングプランナー科について)
- ・高校では卒業が当たり前のイメージから卒業をしない選択をする生徒が増えている。現在は通信制の学校も増えているので学校に通わなくても卒業がしやすくなったにも関わらず増えていることは課題だと感じる。(酒井委員:ウェディングプランナー科について)
- ・色々な選択肢がある中でブライダル業界を選んだ学生が退学をする理由は何があるか(酒井委員)ブライダル業界へのイメージとのギャップを感じる生徒が多い。思っていた雰囲気や仕事内容が違った。という意見が多い。(上さん:ウェディングプランナー科について)
- ・ブライダル業界のギャップを知る学生は多い。サービスに配属されたときに、バンケットディレクター(キャプテン)を経験することができれば新郎新婦の想いの部分などを知ることが出来るが、経験する前に諦めてしまう人が多い。
構想途中ではあるが、業界理解を深めるためにトレンチを持つだけではなく結婚式を見てもらう機会を増やし、細かい流れや裏の姿を見せることで自分に対応していることがその先にどう繋がっているのかを感じてもらい取り組みを行っていきたい。(小杉委員:ウェディングプランナー科について)
- ・業界のキャリアステップは企業にはよるが、基本的には適性で判断をすることが多いためマルチに対応するよりは一つの部署で活躍する人が多い。早くて 1 年でウェディングプランナーになる人もいれば、ウェディングプランナーにならずにバンケットディレクターを極めていく人もいる(小杉委員:ウェディングプランナー科について)

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

卒業生支援、卒業生とのつながりは学園としても強めていきたい。

学校生活に不安を抱えている学生への相談窓口の周知

② 今後の改善方策

就職ガイダンスに現場の先輩を招き、身近な立場として職業について話してもらう機会を設ける。

同窓会の開催を計画的に実施し、卒業生とのつながりを続けていく。

スクールカウンセラーの周知を行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・卒業生による就職ガイダンスは学生の進路選択に良い影響を与えていると感じる。現に自分自身も就職ガイダンスに来てくれた先輩に憧れて内定先を決めた。卒業生は身近なロールモデルとなるため、交流機会があった方が有効だと思う。また、同窓会等の取り組みは卒業後の学びや人脈形成につながっていると感じるので、良い取り組みだと感じる。（坂下委員:ウェディングプランナー科について）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

ロッカーがなく、荷物が多い学生の負担があった。（特にメイク、ネイル）

② 今後の改善方策

キャビネットを入れ、大きな荷物を置いておける場所を確保する

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

募集目標に達しなかったため、対策を考える必要がある。

② 今後の改善方策

ウェディング分野はかなり早期に募集活動が動き出すため、3月～6月にしっかりと人員を確保し丁寧に対応していく。

教育成果を伝えられる魅力的な広報活動を適正に行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・学生募集でも早期化が進んでいる(上さん:ウェディングプランナー科について)
- ・式場見学やオープンキャンパスなどでの企業連携を強化し入学者増加を目指していきたい。
(小杉委員:ウェディングプランナー科について)

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

特になし

【予算・収支計画】

特になし

【会計監査】

特になし

【財務情報の公開】

特になし

② 今後の改善方法

【中期計画】

特になし

【財務情報の公開】

特になし

③ 特記事項

2025 年度は第 3 期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第 3 期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

問題があったわけではないが、個人情報があふれている中で、より明確に全員が同じ認識で個人情報に対して危機感を持ち対策することが必要。

② 今後の改善方策

個人情報の扱いに関してルールを明確にし、定期的に確認、研修等を行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

地域のニーズを理解し対応していくこと。

業界とのつながりの中で学生が活躍できる機会を見つけていくこと。

② 今後の改善方策

地域連携に積極的に参加する。

企業様に積極的に働きかける。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・ボランティアについては現時点では実施していないが、何か希望があれば力になることが出来る。（小杉委員:ウェディングプランナー科について）

・高校ではボランティア活動を推進している。（酒井委員:ウェディングプランナー科について）

(11)国際交流（必要に応じて）

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	
学内で適切な体制が整備されているか	

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・学校は就職支援だけでなく、学生の人間的成長も支援しており、その指導の大変さを改めて感じた。現時点で大きな改善要望はない。学生の成長ややりがい創出のため、今後も企業として積極的に協力していきたい。(小杉委員:ウェディングプランナー科について)